

双葉通信【第 256 回】(人生は旅人No.30) “ふくしまに恋をして 福島人に”

2025 年 8 月 5 日 上田 勉

猛暑の折り、体調に気をつけて、何とか乗り切ってください。楢葉町は海に近いこと也有って、最高気温は 30℃ 前後、最低気温は 25℃ 前後です。今のところ、猛暑日と熱帯夜はありません。

地域の祭りと神社・寺

今回は、双葉郡の地域の夏祭りについて書きます。東日本大震災と福島第一原発事故によって、住民は避難を余儀なくされました。神社の神主や氏子、お寺の住職や檀家も避難しました。神社やお寺は、再建されたところも多いです。しかし、住民が帰って来ないところも多いです。神主や住職さんは、何か行事があれば、避難先から通ってきます。神社には、夏祭りや秋祭りの祭りがありました。また、初詣でや七五三もありました。お寺は、お盆の墓参りや初詣でがありました。これらの行事は、少しづつは復活していますが、震災前の賑わいはありません。

人間の生活は、衣食住だけではありません。生業（なりわい）・学校・神社や寺・風俗慣習・民族芸能、地域にこれらがあつてこそ、人は生活し、一生を送ることが出来るのです。原発事故の最も大きな被害は、地域のコミュニティが壊されたことです。各地域では、地域や学校で、子どもの時から、祭りや踊りが伝承されてきました。しかし、子どもが少なくなつて、伝承も難しくなっています。

祭りや踊りの目的は、“五穀豊穫”や“商売繁盛”です。人間にとっても地域にとっても、農業や商業は、生活の基本です。これらのことを、神様に祈ることが、祭りや踊りです。

祭りや踊りがあれば、戻つて来ない人も町を訪れます。やはり、祭りや踊りは、その人達にとっては、心の故郷なのです。避難生活をしている仮設住宅で、祭りや踊りが再開されました。人びとはそれを見て、故郷を思つて、涙を流しました。

戻つて來た住民は、お年寄りが多いです。震災から 14 年 6 カ月が経つて、もう戻つて來る住民は少ないです。戻つて來た住民と新しく移住してきた若者によって、祭りが再開されています。神輿（みこし）の担ぎ手が足りないのが、全国的に問題になっています。各祭りを回つて、祭りを助けるボランティアも多いです。

戻つて來ない人にとって、墓や墓参りも大変です。帰還困難区域にある墓地では、住民は町役場に申請して、帰還困難区域に入らなければなりません。まずスクリーニングをして。入口のゲートで許可書を見せます。帰りには、再びスクリーニング場に寄つて、放射線量を測定します。

墓地を維持するためには、200 戸以上の檀家があることが、必要だと聞きました。住民が戻らなければ、将来は墓地を維持管理していくことも困難になります。